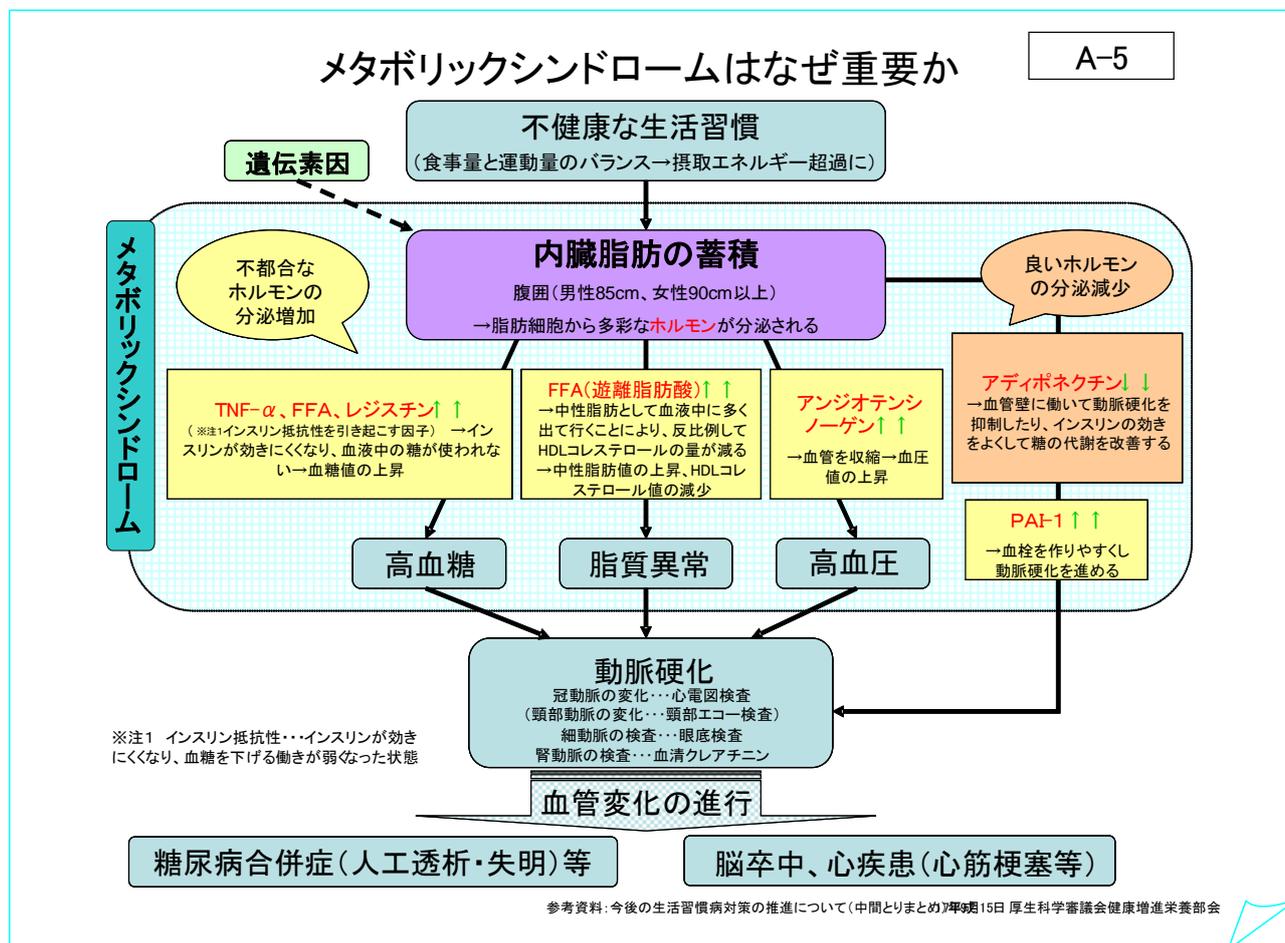


図4 メタボリックシンドロームのメカニズム

代謝等身体のメカニズムに関する知識を伝えるための教材例



2)メタボリックシンドロームのメカニズムを理解すれば、保健指導の対象者が明確になる。

科学的根拠に基づき、内蔵脂肪が原因の糖尿病、高血圧症、高脂血症、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病腎症による人工透析等に対象を絞り込むことができる。

また、リスクの数に応じて保健指導の対象者に優先順位をつけることができる。メタボリックシンドロームは、血糖、血圧、脂質等のリスクが多ければ多いほど、心血管疾患の発症リスクが高まる。そこで、リスクの多い人から優先順位をつけて保健指導をすることが重要になる。具体的には、積極的支援を実施する保健指導の対象者をリスクの多い人に絞り込み、リスクの重なり具合から優先順位をつけて保健指導を実施することができる。(図5, 6)

今回の医療制度改革で目標としている糖尿病等の生活習慣病有病者・予備群の25%減少のため、8ページの「メタボリックシンドロームの保健指導に着目した糖尿病等の生活習慣病の発症予防・重症化予防の流れ」により代謝のメカニズムと健診データ、レセプトデータ(予防可能な病態、疾病)の関係を押さえ、予防の対象者を的確に抽出し、確実に保健指導を実施することが重要である。